

9月教育委員会会議録

日時：令和7年9月10日（水） 午前10時00分

場所：山口県教育庁教育委員会室

(公開)

教 育 長	<p>それでは、ただいまより令和7年9月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>最初に本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>和泉委員と藤田委員、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第1号、協議事項1は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。</p>
全 委 員	承 認
教 育 長	それでは、議案第1号、協議事項1については非公開で審議することといたします。
教 育 長	それでは、議案の審議に入りたいと思います。 議案第2号について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	<p>令和7年度の山口県教育委員会の点検・評価について御説明します。</p> <p>資料1の概要版をご覧ください。資料1の2ページからになります。まず、点検・評価の概要についてです。この点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき実施するものです。法律では、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。また、実施に当たっては、「教育に関する学識経験者の知見の活用を図る」ことになっております。初めに、教育委員会の活動状況について、スライドの3ページになります。</p> <p>教育委員会の活動状況を整理し、活動ごとに、主な内容と件数等について令和6年度の実績を表に掲載をしております。なお、件数等のかっこ内の数字は令和5年度の実績です。</p> <p>まず、教育委員会会議については、毎月1回、年度を通して計12回開催し、議案51件、協議報告事項42件について審議等を行うとともに、教育課題について、教育委員による自由な意見交換を行いました。</p> <p>なお、新型コロナの影響から中止しておりました移動教育委員会について、令和6年度は5年ぶりに開催し、意見交換などを行ったところです。</p>

次に、知事が開催する2回の山口県総合教育会議に出席し、「山口県教育大綱」や「令和6年度重点取組方針に基づく取組状況」、新年度の「重点取組方針」について協議しました。

4ページです。次に、県内視察については、計9か所の学校等を訪問し、授業視察、意見交換等を行いました。その他、公安委員会との意見交換や、各種会議において他県の教育委員等と意見交換を行ったところです。

5ページです。活動の総評として、会議や学校視察等を通じ、教育課題に関する協議を行うとともに、関係機関等との意見交換を積極的に行うなど、教育行政の推進に取り組んでまいりました。教育委員会の活動状況については以上です。

6ページです。続いて、事務事業の実施状況についてです。この事務事業の実施状況の点検・評価では、計画の進捗を多面的に評価するため、山口県教育振興基本計画の施策体系に基づき、施策ごとに複数の推進指標を掲げ、評価を実施しています。また、目標達成に向けて、P D C Aサイクルを推進するため、各施策において「主な取組内容」「成果」「課題」「今後の展開方向」を整理しています。なお、スライドの下の部分に記載したように、当該年度の推進指標の実績値が目標値にどの程度近づいているかを、推進指標の進捗率として算定しています。7ページに、この進捗率に基づき、評価基準に沿って評価結果を5段階の星でお示ししています。

1つ目の※印のとおり、5年の計画期間での目標達成に向けて、毎年20%ずつの進捗を「ほぼ計画どおり」の星3つとし、幅を持たせて、年次ごとに「目標を達成」の星5つ、「計画を上回る」の星4つ、「計画を下回る」の星2つ、「計画から大幅に遅れ」の星1つとして定義しております。なお、この考え方は、県の総合計画である「やまぐち未来維新プラン」と同様です。

※印の2つ目、進捗が計画どおりとならない場合、すなわち星が2つまたは1つの場合には、個別に計画を下回った要因と今後の展開方向を点検・評価報告書に記載することとしています。

また、最終年度は目標に対して「達成」「概ね達成」「未達」の3段階で評価することとし、その定義を※印3つ目に記載しています。

スライドの8ページ、計画に掲げる26の施策について、星3つ以上ほぼ計画通り、またはそれ以上に進捗している推進指標の割合をお示ししています。

また今回は計画の2年目の評価となりますので、前年からの進捗率の推移を矢印で「上昇」、「横ばい」、「下降」の3段階で表記しております。

「⑯ 地域社会における人権教育の推進」、「⑰ 安心・安全で質の高い教育環境の整備」、「⑱ 学校における働き方改革の推進」では全ての推進指標が順調に進捗しています。一方で「④ 学校保健、学校給食・食育の充実」においては、順調に進捗している指標の割合は0%と低い評価となっています。また、多くの施策において、順調に進捗している推進指標の割合が50%を下回るなど、取り組みの更なる強化が必要となっています。

続いて6つの施策の柱の進捗状況についてです。9ページになりま

	<p>す。こちらは計画における施策の6つの柱ごとに星3つ以上、ほぼ計画通り、またはそれ以上に進捗している推進指標の割合をお示ししています。また計画に掲げる26の施策と同様、前年からの進捗率の推移を矢印で「上昇」、「横ばい」、「下降」の3段階で表記しています。現計画において、社会の変化や多様な教育ニーズに対応するため新たに追加した2つの柱、「2. 新たな時代を創造する人材を育む教育の推進」と「3. 誰一人取り残されることのない教育の推進」について、順調に進捗している推進指標の割合は上昇傾向にあるものの、いずれも50%以下となっています。また、「1. 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育の推進」では、計画策定時に課題であった体力向上については、計画以上に進捗している一方で、学校保健、学校給食・食育の充実に係る取り組みの進捗が遅れるなど、厳しい評価となっています。</p> <p>以上が、事務事業の点検評価の全体概要となります。これらの評価結果を真摯に受けとめ、PDCAサイクルをしっかりと推進して、令和9年度の目標達成に向け、各施策の取組を充実して参ります。</p> <p>説明は以上となります。</p>
教 育 長	ただいま教育政策課から議案第2号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	<p>御説明いただきましてありがとうございます。</p> <p>目標自体がどれくらいのレベルで設定されたかにもよるんでしょうけれども、進捗状況がかなり目標を上回っているもの、下回っているもの、幾つかいろいろとありますが、⑤学校保健学校給食食育の充実0%というのは、何か理由があったんでしょうか。少しも達成できていないというのが気になったのですが、いかがでしょうか。</p>
学校安全・体育課長	<p>御質問ありがとうございます。学校保健、学校給食・食育を担当している課でございます。資料②の26ページに、結果について載せています。2. 進捗状況を見ていただきますと、指標として「肥満傾向児の出現率」、「12歳で虫歯のない人の割合」、「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」、「学校給食による地場産食材を使用する割合」ということで、主に生活習慣に関して、細かく指標を示しているところでございますけども、全国的な傾向も、ものによってはありますが、この結果を真摯に受けとめている状況です。そういった生活習慣の改善を、様々な機関、保護者とも連携をしながら取り組んでいますが、数字で見ると、こういう状況にあったということになります。学校では、「学校保健計画」や、「食に関する指導の全体計画」などといった様々な取り組みをされていますし、各機会を捉えては本県の状況をお伝えはしております。そういった中でいろいろとご協力いただきながらも、もう少し重点的に取り組んでいかなければいけない課題であると、この数値自体の結果を受けとめているところです。</p> <p>また、学校の取り組みが一時的なものとなっているところもあるかなと分析をしています。そういう面では家庭や地域のご協力が必然的に必要かなと思っています。資料②の26ページ「12歳で虫歯のな</p>

	<p>い人の割合」という項目がありますけども、実は小学生の歯磨き大会、小学5年生を対象にした実施率は山口県100%でございます。全国でも100%というところはないのですが、山口県では実際に普段の生活の中に生かされてるかというところが課題かなと考えています。学校でも、歯のことではフッ素洗口や、生活習慣全体でいうと、子供たちの1日の生活の流れを提出いただく等の取り組みを行っていますが、なかなか数値まで上がっていないというのが現状で、しっかり地域とご家庭を巻き込んで、この取り組みを進めていかないといけないというふうに思っております。</p>
教 育 長	<p>進捗率の捉え方というのは、目標値に対して5年間で割り振りをして上がっていくのですが、その平均値よりも下回ったらダメなんです。だから、平均値を上回ってるものがあれば、1%でも2%でも上がるんですけども0%というのは、平均値を上回るところがないから0%ということで、全く何もしてないというわけではないので、そのあたりの捉え方が少し違うということになると思います。</p>
和 泉 委 員	<p>ありがとうございます。また引き続き、御尽力いただければと思います。</p> <p>別冊の資料で、26ページを御紹介いただいて、確認いたしましたが、給食における地場産食材を使用する割合が前年度より落ちている原因として、物価高騰等というのがありますが、その辺も、現場も大変でしょうけども、県としても、教育委員会としても何らかの支援ができればなと思いました。</p>
学校安全・体育課長	<p>資料②26ページに「計画を下回った要因と、今後の展開」にあるとおり、天候不順や物価高騰などの影響を受けて、こういった数字になっています。実は、こちらは食品ベースで出した値になります。県独自でやっているものですが、実は金額ベースでいきますと、山口県は全国で一番です。全国で地場産食材の金額ベースとなりますけども山口県は84.5%、全国が56.4%です。その次が、栃木県の80.1%ということで、その見方や、指標の設定方法もあるかもしれませんが、できるだけ物価高騰などといったところを補助しながら進めていますので、そういう意識で、全国的にいろいろベースが違う比較もありますけども、高いところに配置しながらも、もう少し高さを目指してというふうに取り組んでおります。</p>
和 泉 委 員	<p>ありがとうございます。そういったこともあるようでしたら、もっと宣伝されてもいいのかなと思いました。引き続きよろしくお願ひいたします。</p>
伊 藤 委 員	<p>私は乳幼児に関わっておりますけども、ここ最近、毎年ごとに、乳幼児の身長、体重がかなり上がっておりまして、職員がびっくりするぐらい子供たちの成長がやはり顕著でございます。</p> <p>また、各市町村、皆さんあんまりご存じではないかもしれませんのが、乳幼児は朝ご飯チャレンジという制度がございまして、各市町村</p>

	がかなり頑張って、朝ご飯をきちんと食べて、きちんと1日の食事をみんなで摂取しようと保護者にも向けて推進が図られております。それに伴い、歯科医とも協働いたしまして、歯の健康、口腔内の健康もかなり、山口県は並行して行われておりますので、そういう子供の健康の取り組みに関しては、かなり私は満足しております。以上でございます。
学校安全・体育課長	ありがとうございます。こちらも生活習慣のところになりますので、家庭、地域と連携しながら進めてまいりたいと思っております。朝食の話が出ましたが、実は全国の値より山口県は高い状況にはあります。数パーセントにはなりますが、伊藤委員が言われますように全国より高い数字で来ていると思っております。以上でございます。
教 育 長	その他、ご意見ご質問等はありますでしょうか。 議案第2号については、承認することとしてよろしいですか。
全 委 員	承 認
教 育 長	それでは、議案第2号を承認します。
教 育 長	それでは、報告事項1について、高校教育課から説明をお願いします。
高校教育課長	<p>令和7年3月の公立高等学校等卒業者及び県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について御報告いたします。資料の13から30ページの内容について項目ごとに説明いたします。</p> <p>まず、公立高等学校等の進路状況から御説明します。資料①の16ページをお開きください。</p> <p>第1表は、卒業者の進路別状況であります。表の一番上の行の「令和7年3月」の欄を御覧ください。「大学等進学者（A）」の割合は52.2%、「専修学校等進（入）学者（B）」の割合は18.9%、1つ飛ばして「就職者（D）」の割合は26.4%、「その他（E）」の割合は1.8%となっており、昨年に比べて、大学等進学者の割合が増加し、就職者の割合が減少しています。</p> <p>17ページを御覧ください。第2表は、設置者別の大学等進学状況です。表の中の「大学」の「計」の欄にお示ししておりますように、大学等進学者のうち、大学への進学者の計は3,250人であり、構成比は93.0%です。同様に、短期大学への進学者の計は186人であり、構成比は5.3%です。</p> <p>18ページですが、第3表は、大学・短大の学部系統別の進学状況です。左側の「1.大学」の表を御覧ください。大学進学者のうち進学者数が最も多い系統は、大分類「社会科学」の中の「商学・経済学」であり、683人が進学し、構成比は21.0%となっています。次いで多いのは「工学」であり、501人が進学し、構成比は15.4%となっています。続いて、右側の表の短期大学については、進学者が最も多い系統は、「教育」であり、76人が進学し、構成比は4</p>

	<p>0. 9 %となりました。</p> <p>19ページの第4表ですが、これは、大学等の所在地別にみた進学状況です。大学進学者のうち、山口県内の大学に進学した者は、「1. 大学進学者」の表の中の「山口県」の列の一番下の「合計」のところにお示ししておりますように、実数が1, 049人で、構成比が32. 3%となっています。同様に、短期大学進学者のうち、山口県内の短期大学に進学した者は、実数が107人で、構成比が57. 5%となっています。</p> <p>20、21ページの第5表は、国公立は3人以上、私立は10人以上が進学した大学及び短期大学を、地域別にまとめたものです。大学・短大ごとの進学状況が見て取れます。</p> <p>22ページの第6表は、専修学校等進学者の系統別状況です。最も多い区分は「医療」で、実数が312人、構成比が24. 6%です。</p> <p>続いて、就職の状況です。23ページの第7表は、就職者の職業別状況です。「区分」の列の中ほどにあります「生産工程従事者」の中の「製造・加工従事者」が620人と最も多く、構成比は35. 1%です。</p> <p>24ページの第8表は、学科別の就職状況です。上の表の「就職者に占める各学科の状況」で、工業科が53. 8%と一番高い状況で、下の表の「各学科に占める就職者の状況」においても、「工業科」における比率が一番高くなっています。</p> <p>次に、令和7年3月の県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について御説明いたします。まず、28ページをお開きください。</p> <p>第1表の卒業者の進路別状況についてですが、卒業者のうち、進学者の割合は3. 0%、就職者の割合は、34. 1%、福祉施設の利用者の割合は55. 7%、その他については、7. 2%となっております。</p> <p>第2表は、進学先の一覧を、29ページの第3表は、就職者の職業別状況をお示ししております。</p> <p>30ページの第4表は、利用福祉サービスの一覧でございます。</p> <p>今後も、生徒一人ひとりの進路希望が叶うように全力で支援していきたいと考えております。説明は以上でございます。</p>
教 育 長	ただいま高校教育課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問等はありますか。
和 泉 委 員	御説明ありがとうございます。表を拝見させていただいて、山口県の国公私立トータルでも、県内に進学している生徒さんが増えたということで、山口県としてはいい方向かなと思っております。引き続き山口県の魅力を大学側でも発信していくかないといけないかなと思ってるところですが。ちなみに、専修学校の行き先というのは、大学進学よりも、県外が多いなど、そういう傾向はありますでしょうか。
高校教育課長	大学短大については、県内県外を整理しておりますけれども専修学校については、それぞれの県にすべての業種分類が設置されておりませんので、県内県外で整理してはおりませんが、全体的な傾向といった

	しましては、専修学校の本県における進学率が若干下がり傾向になっていますので、おそらく実数からいきますと専修学校にしましても、県内に進学する子供の実数は減っているのではないかなと思っています。以上でございます。
和 泉 委 員	県外に出ると山口県に戻ってこない傾向があると、よくお聞きしますので、その辺も専修学校が県内になければ県外に出て行くことになりますが、できるだけ県内に残っていただいたほうが、やはり山口県としてはいいのかなと思い、お聞きしました。何か分かりましたら、また教えていただければと思います。よろしくお願ひします。
高校教育課長	ありがとうございます。大学や短大に限らず専修学校につきましても就職もですが、山口県の子どもにはぜひ将来を支えるべく、山口県の中で学んでいただき、山口県に就職していただければと思っておりますので、すべて含めて、取り組みをまた進めていきたいと思っております。ありがとうございます。
木 阪 委 員	県内大学の進学率は、32.3%で増えているということで、非常に定着率が高くなっていますが、まだ、今後さらに、この定着率を高めるための施策のようなものがあれば、お聞かせいただきたいと思います。
高校教育課長	現在でも限界に近く頑張っているところでございますが、県内大学の数も20校程度ございますので、そういった学校の魅力が、大学もいろいろ改変していたり、状況も変わっていますので、どういった学部があるのか、どういった教育内容を行っているのかということを、高校生にしっかりと伝えて進学先を決めてもらうことが重要であると思っています。そういういたガイダンスの充実等を含めて行ってまいりたいと思いますし、県、大学との連携を、高校では多く進めておりますので、さらに強化しまして、高校生にしっかりと良さを見てもらつて進学先を決めていただくということを引き続き更に強化して進めていきたいというふうに考えております。以上です。
木 阪 委 員	ありがとうございます。先日とあるところで、首都圏の私立大学の先生のお話の中で、首都圏の生徒さんが7、8割ぐらいいらっしゃるということで、残り2、3割が地方から来る生徒さんだと思いますが、今後人口とともに、生徒の数も減っていく中で、表現が悪いですが、うちの学校にといった取り合いの競争が激しくなっていくと思いますので、より県内の良さをどんどんPRをしてもらいながら、あとは仮に、一旦県外に出られたとしても、山口に戻ってこれるような形で、いろいろと尽力していく必要があるかなと感じましたので、引き続きよろしくお願ひします。
高校教育課長	ありがとうございます。大学に進学、県外の大学に進学する生徒がどうしても一定数いるんですけども、進学した後、就職の段階でもしくは、就職してもさらにそのあの段階で山口県に帰ってきて欲し

	<p>いなと考ておりますので、そうした山口県の良さ、郷土を愛する心というものを小学校、中学校、高等学校でしっかりと高めて、大学に行って、将来の山口県に帰ってきていただくということを進めるために義務教育課とも連携しながら、小中高でしっかりと取り組んで参りたいと思っています。以上です。</p>
伊 藤 委 員	<p>周南公立大学が開設されまして、他県から学生さんがかなり看護学科にもいらしてるんですよね。その中で、保育園にも看護学科の学生が実習に来るのですが、若者と話していました、今度就職したら、どうするのと話をしましたら、県外の地元に帰ったり、それから専門性を持って都会に出ていくというような話を聞く中で、せっかく山口県におられて、専門科目を勉強されてるわけですし、また山口県の看護師不足っていうのもかなり言われておりますので、先ほども木阪委員もおっしゃったように、山口県での専門職の欠員というところが、皆さんのお努力で、何とか残っていただけるようなことになれば、私は幸いと思いますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
高校教育課長	<p>周南公立大学のお話がありましたけれども、山口東京理科大学など、公立の大学が増えています、そういった大学に、進学する山口県の生徒は徐々に増えてきています。県内の制度だけではなく県外からも当然そういった大学に多く来られますので、来られた学生が、山口県の魅力を知っていただいて、山口県に1人でも多く残っていただけるようにと思っておりますけれども、なかなか直接関与することが難しいところもありますので、山口県から大学に行った子供たちを通じて、県外からの人が山口県の魅力を伝えていただけて、1人でも多く残っていただければと考えております。以上でございます。</p>
教 育 長	<p>その他、何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。 それでは報告事項1については、以上の通りといたします。 次に報告事項2について、学校安全・体育課から説明をお願いします。</p>
学校安全・体育課長	<p>令和7年度全国高等学校総合体育大会について御報告します。資料は、31ページからになります。</p> <p>8月の教育委員会会議では、県内開催競技種目の結果を中心にご報告させていただきましたが、本日は、大会の運営状況等、全般について、ご報告させていただきます。</p> <p>本大会は、平成28年以来9年ぶりに中国ブロックでの開催となり、令和2年度に全国高等学校体育連盟からの開催依頼を受けて以降、令和3年度に中国ブロック開催が正式に決定し、県高体連や各競技団体、各市町との調整を図りながら、準備を進めてまいりました。関係各機関のご協力のもと、令和4年に県内開催競技と開催市が決定し、本年度の開催に至っております。</p> <p>まず、「1. 大会の概要」ですが、今までお話をしておりますので、お示しのとおりとなっております。</p>

	<p>次に、「2. 競技種目別大会」ですが、本県では7月24日から8月20日までの28日間、6競技を5市で行い、本県への来場者等については、下側にお示しをしていますが、選手・監督約6,200人、大会役員等約4,200人、参加校数973校、観客延べ約55,000人となりました。詳細については32ページからの「資料1」にお示しております。</p> <p>また、本県選手の競技結果につきましては、資料37ページ「資料3」のとおりで、前回の教育委員会会議で県内開催状況等については御説明いたしましたが、こちらを見ていただきますと、本県の開催競技は網掛けをしていまして、ベスト8以上を載せてますが、山口県の開催競技で選手も非常にプレッシャーはあったと思いますが、大会運営に携わってきた高校生のおかげもありまして、背中を押すことができて入賞も増えたかなと思っています。すべての競技を通じまして学校対抗5競技で優勝するなど中国地域で行われたということもありますし、全ての競技を通じて学校対抗5競技で優勝するなど、14競技37種目で入賞し、昨年度の入賞数を上回る好成績を収めております。</p> <p>次に、31ページに戻っていただきまして、「3. 高校生活動」についてですが、大会に出場する選手のみならず、大会を支える本県高校生の活躍も重要であることから、小・中学校を含む県内すべての学校にプロモーション動画を送付し、開催機運の上昇を図るなど、取り組みを積極的に進めてきたところです。</p> <p>具体的には、34ページ「資料2」のとおりで、写真でもお示ししておりますが、延べ3,300人の高校生の参加により、SNSを活用した広報活動や地域と連携した会場地での清掃活動など様々な活動を実施するとともに、大会期間中は各競技会場での運営補助やボランティア活動で全国からの参加者を温かくお迎えしました。</p> <p>今一度、31ページに戻っていただきまして、「4. お成り」についてですが、岩国市で開催されたアーチェリー競技にアーチェリー連盟名誉総裁として高円宮承子女王殿下がご臨席され、男女決勝戦をご覧になられ、高円宮賜牌を授与されています。</p> <p>最後に、「5. 大会の成果」についてですが、本大会の開催を通じて、本県高校生の高まった競技力を十分に発揮することができました。また、高校生活動に参加した生徒は、支える立場から大会に関わることを通じて、学校の枠を越えた豊かな人間関係を構築するとともに、主体的に学び、多様な他者と協働して取り組む力を高めるなど大きな成果を得ることができたと考えております。</p> <p>教育委員の皆様にも昨年の視察を始め、各種イベント、本年度の大会にも視察、激励をいただき感謝をしています。</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
教 育 長	ただいま学校安全・体育課から報告事項2について説明がありました が、意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	御説明ありがとうございます。これだけの大きな大会を、成功裏に遂行されました。役員、保護人員、補助員の皆様、参加された生徒は

	<p>もちろんですが、関係の皆様方に改めて敬意を表したいと思います。ありがとうございました。また、成果のところでも御説明いただきましたが、競技を主体的に学び、多様な他者と協働して取り組む力が高まるというような大きな成果ということですが、インターハイを目指して、県予選の敗退した生徒も、その中で、同じような成果が得られたのではないかなと思っております。</p> <p>また、高校の現場では新チームがもうスタートしているころかなだと思いますが、来年度のインターハイを目指して、高校での教育活動の充実に努めていただければと思っております。よろしくお願ひいたします。</p>
廣 兼 委 員	<p>私は新体操と水球の観察に行かせていただきました。両方とも初めて見ましたが、水球に大興奮で、翌日、個人的に子供を連れて、見に行きました。高校生の子と一緒に行ったんですけども、大会運営をする同じ年代の高校生を見て、「すごく生き生きしてた。私もこれに参加したかった。」というふうな感想を言っていました。それ以外のことは口にはしなかったのですが、その後の本人の学習や、体育祭の運営で応援団に入っていて、頑張りが去年とは少し違っていたかなと思いましたので、親として本当に嬉しい限りでした。ありがとうございました。</p>
木 阪 委 員	<p>バトミントンの試合を3試合、準々決勝、準決勝、決勝を観戦させていただいて、なかなかドラマもありまして、なおさら感慨もひとしおでございました。改めてスポーツの力といいますか、高校生の力を本当にさまざまと感じました。たまたま優勝者チームは私の当該居住地域の高校がおられましたけども、その後も市役所の中での祝賀会が開催されて、非常に盛り上がって、地元市民の方々も、自分たちが住んでいる、地域の生徒さんが頑張ったということで、市民の意識も非常に高揚しますので、特に開催地でもありましたから、選手たち皆さんプレッシャーもあったと思うが、よく頑張られたなと思います。また引き続き場所は違えど、スポーツを応援するという、気持ちは持ちながらも、地元の高校生を今までと違った目で応援していくいたいなと感じた次第でございます。ありがとうございました。</p>
教 育 長	<p>私もいろいろと大会を見させていただきましたけれども、翌日は応援で声が枯れて、協議もできなかつたような状況になっておりました。各会場、地元の高校生、大会補助員も含めて、いろいろなボランティアを含めて、様々な運営に対して、主体的に取り組んでいただいたということで、競技する選手以外の高校生の皆さんも本当に思い出に残る心に残る素晴らしい大会だったと思います。高校生をはじめ、大会に携わった皆さんには感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項2については以上の通りといたします。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>

教育政策課長

次の教育委員会会議は10月16日木曜日、午後2時からを予定しています。よろしくお願ひいたします。